

総合工学委員会原子力安全に関する分科会
社会のための継続的イノベーション検討小委員会
第25期・第7回議事要旨

令和4年6月9日
作成 澤田 隆

1. 日時 令和4年6月3日（金）13:00～14:40
2. 会場 遠隔会議 オンライン開催
3. 出席者 松岡委員長、越塚副委員長、小野、白鳥、宮野、矢川、山本、澤田、（佐倉、関村、吉村、中村欠席）
4. 配付資料
 - 資料1 前回議事要旨
 - 資料2 社会のための継続的イノベーション報告案Ver5
 - 資料3 報告書案_20220603(山本担当分)
 - 資料4 IRGC_COVID19_和訳201109
 - 資料5 3.4節討議用資料
 - 参考 前回議事メモ
5. 議事
 - 1) 議事要旨確認（資料1）
 - ◎議事要旨を確認した。
 - 2) 社会のための継続的イノベーション報告書案 Ver.5（資料2）についての議論
 - ◎資料2（1章、2章）について意見交換を行った。
 - ・松岡委員長から、1章の前回からの変更点（青字）の要点の説明があった。また、2章は大きな変更なしとの説明があった
 - ◎資料3（3.1章）について意見交換を行った。以下に内容を示す。
 - ・山本委員から、3.1章の前回からの変更点（色字）の要点の説明があった。
 - ・3.1と3.2以下とのバランスが悪いとの意見があり、3.1を第3章とし、3.2以下を第4章とすることとした。
 - ◎資料2（3章）について意見交換を行った。以下に内容を示す。
 - ・分散型が集中型に取って変わるというのは、発電側の見方。社会の中でどう組み込むかという使う側の視点が必要ではないか。つまり、システム（全体）としての視点が必要ではないか。
 - ・「社会のニーズ」はあいまいである。国民（消費者）のニーズはあっても、電力供給者から見るとニーズがないのではないか。
 - ◎資料5（3.4）について意見交換を行った。以下に内容を記す。

- ・小野委員から、パンデミックがリスクであることは昔から分かっていた、3.1～3.3 と比べて技術ドリブンとの話にならない等の説明があった。
- ・リスクがあると分かっていたのに、対策が出来なかった原因は何か？
- ・行動制限をしつつ混乱を防ぐというトレードオフ問題ではないか。
- ・経済と人権をどこまで制限することが許されるのか。
- ・事前にどこまで想定し、準備・対策しておくかは難しい。
- ・「どこまで問題」は永遠の課題。尺度も重要。
- ・原子力の DBA と BDBA の考え方がパンデミック問題にも役立つのではないか。
- ・リスクは人間が感じるものなので、言い合い納得することで不安を解消する役に立つのではないか。

◎本日の意見交換を踏まえて、内容のアップデートを行う。

3) 資料2 (第4章 提言) についての議論

◎資料2 (第4章 提言) について意見交換を行った。以下に内容を示す。

- ・この提言に沿った内容が3章までで言及されているか確認が必要。
- ・第4章を意識して文章を見直すこととする。
- ・米国はマーケットドリブンで、どれだけ安全にするかをお金で計算して決める。日本は何で決めるのか？ 21世紀型は如何にあるべきか？
- ・日本では市場ドリブンだけでは難しい。日本型は如何にすすめるべきか？

◎本日の意見交換を踏まえて、内容の整理と更新を行う。

4) 今後の進め方について

- ◎ 意見交換の内容に基づき、内容の整理と検討を進める。
- ◎ 次回は委員長が別途メールで日程を調整する。

以上